



撮影・提供：谷口 洋人 氏

地域を見守る二宮尊徳像とニレの木（旧東裏小学校）

二宮尊徳は、戦国時代が終わり、江戸幕府が開かれ、その後、百年間で人口は千六百万人から三千万人に増えた高度成長と繁栄が止まった低成長時代、人口もGDP（国内総生産）も増えない現代と重なる時代を生きた。

江戸時代の燃料である換金効率の良い薪を売りながら本を読み、山を買い、生産、流通、販売と効率良く働き、更にお金を運用して増やし、個人向けから関東六カ村、小大名や旗本にも融資をした才能を見込まれ、各地の行財政改革を担っていた。

ある企業グループの創業者も尊徳の教えを信条とし、徹底したコスト削減や効率を追求する姿勢に受け継がれている。

低成長期に文明、文化が発展し、工芸技術の進歩、金融システムの確立、教育の普及率向上などが進んだ、人口減少と低経済成長の現代、未来をどう生きるか地域を見守っている。

議会広報特別委員会
(稲村副委員長)

私・の・好・き・な **あ** 地・域・の・教・え

と
き